

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第3812845号  
(P3812845)

(45) 発行日 平成18年8月23日(2006.8.23)

(24) 登録日 平成18年6月9日(2006.6.9)

(51) Int. Cl.	F I
A 4 1 H 3/00 (2006.01)	A 4 1 H 3/00 Z
A 4 1 H 31/00 (2006.01)	A 4 1 H 31/00 Z
A 4 1 H 43/00 (2006.01)	A 4 1 H 43/00 Z
A 4 2 B 1/18 (2006.01)	A 4 2 B 1/18 J
A 4 2 C 1/00 (2006.01)	A 4 2 C 1/00 N

請求項の数 2 (全 7 頁)

(21) 出願番号	特願2004-349552 (P2004-349552)	(73) 特許権者	504379431
(22) 出願日	平成16年12月2日(2004.12.2)		加納 正子
(65) 公開番号	特開2006-161174 (P2006-161174A)		埼玉県さいたま市中央区上峰 3-7-2 2
(43) 公開日	平成18年6月22日(2006.6.22)		-302
審査請求日	平成17年11月16日(2005.11.16)	(72) 発明者	加納 正子
			埼玉県さいたま市中央区上峰 3-7-2 2
			-302
特許権者において、権利譲渡・実施許諾の用意がある。		審査官	内山 隆史
早期審査対象出願			

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 縫製用パターンシート及びサンバイザー用布製カバー

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

縫製用型紙において、見開きで透明性のあるフィルム状シートに、裁断線と縫製線を一部分残して切り込んであり、待ち針で布を固定する為に待ち針穴を複数個設けたことを特徴とする縫製用パターンシート。

【請求項 2】

請求項 1 の縫製用パターンシートを使用して、縫製用パターンシートの中心線を布の縦地方向に合わせて対となっている待ち針穴に待ち針を打ち、布と縫製用パターンシートを固定してあて切りをすることにより形成するか、あて切りをしない場合には、縫製用パターンシートを見開いて対となっている待ち針穴に待ち針を打ち布に固定して裁断線と縫製線を印付けた後、布から待ち針と縫製用パターンシートをはずし裁断線に沿って裁断することにより形成した庇表、庇裏、接頭部表、及び接頭部裏を縫い合わせるにより形成するサンバイザー用布製カバーの製作方法。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、従来の縫製用型紙に代えて透明性のあるフィルム状シートを利用した縫製用パターンシート、及び、その縫製用パターンシートを使って縫製したサンバイザー用布製カバーに関する。

【背景技術】

10

20

## 【0002】

従来の市販されている洋裁や手芸などの型紙はほとんどが紙に印刷されており、直接使用できる実寸大の型紙と、実寸大に作図し直す必要のある縮図形の型紙がある。一般に、縫製用型紙には縫製線が示されており、実寸大の型紙を布地の上に置いて、縫い代を見込んで裁断した後に、布地に型紙を付けたまま縫製線上をヘラやルーレット等で押えて跡を付けるか、あるいは縫製線上に仕付糸で糸仕付けをして縫製線を布に印付けている。最近では電子ファイル化された洋裁用型紙をプリンタ出力する型紙（特許文献1）や縮小版洋裁用型紙を拡大コピーで実寸に戻す型紙（特許文献2）も出願されている。しかし、それらは型紙の保存形態の違いであり、実寸にした型紙として利用する方法は従来と変わりはない。従来と違った方法で布に縫製線を印付ける縫製用型紙として、違うサイズの縫製線が複数ついている型紙を布の上に置き、目的のサイズの縫製線を選んで布に縫製線を直接作図する型紙（特許文献3）や、縫製線を裏面に印刷した型紙を切り離して布地の裏に置きアイロンをかけて布に縫製線を転写する型紙も+++++市販されている。アイロン転写方式の型紙は、印刷に特殊なインクを使用しているのも裏写りの可能性があり、使用する縫製線を正確に確認する必要がある。さらに縫い代にかなり余裕の幅を持たせて型紙を切り取り、それに合わせて布地を裁断するので、アイロンをかけて縫製線を転写した後で、適正な縫い代にする為にもう一度裁断する必要がある。

10

【特許文献1】特開2003-253515

【特許文献2】特開2004-156190

【特許文献3】実開平6-2880

20

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

## 【0003】

従来は縫製用型紙に印刷されている複数の縫製線の中から使用する縫製線を見つけて布にあて、縫い代を含めて裁断した後で、型紙をつけたままヘラやルーレット等で押えて跡を付けるか、仕付糸で糸仕付けをして縫製線を布地に写し取っていた。しかも、従来の縫製用型紙には裁断線が示されていないので、手馴れた者は縫い代幅を目分量で裁断することも出来たが、不馴れた者は縫い代幅を測りながら布に裁断線を印して裁断する必要がある。また、従来の紙に印刷されている縫製用型紙は繰り返し使用する為に、破損しないよう気をつけて取扱っていても、待ち針を打つのでそこから破れやすいし、折り畳むことによる擦れ等で型紙の破損は避けられなかった。

30

## 【0004】

一方、外出時あるいはスポーツなどで、顔の日除けや日差しの眩しさを和らげる為に使用するサンバイザーには布製とプラスチック製の物があるが、色やデザインを替えたい時は、サンバイザー本体を取り替えなければならなかった。しかし、サンバイザーの色やデザインの種類は少なく、特にプラスチック製サンバイザーは選択の幅が狭かった。其処で、いろいろな色やデザインのサンバイザー用布製カバーを作って、それをサンバイザーに付け替えれば、サンバイザー本体を取り替えなくても色やデザインを楽しむことができるのではないかと考え、いままでなかったサンバイザー用布製カバーを縫製することにした。

40

## 【0005】

サンバイザー用布製カバーが左右対称形である事に着目して、見開きのフィルム状シートを用いてサンバイザー用布製カバーの縫製用パターンシートをいろいろ試作し、それにより完成された縫製用パターンシートを使って、サンバイザー用布製カバーを縫製することを本発明の課題とした。

【課題を解決するための手段】

## 【0006】

請求項1の本発明の縫製用パターンシートは、見開きで透明性のあるフィルム状シートに、裁断線と縫製線を一部分残して切り込んであり、待ち針で布を固定する為の待ち針穴を複数個設けたことを特徴とする。また、請求項1の縫製用パターンシートを使用して、縫

50

製用パターンシートの中心線を布の縦地方向に合わせて対となっている待ち針穴に待ち針を打ち、布と縫製用パターンシートを固定してあて切りをすることにより形成するか、あて切りをしない場合には、縫製用パターンシートを見開いて対となっている待ち針穴に待ち針を打ち布に固定して裁断線と縫製線を印付けた後、布から待ち針と縫製用パターンシートをはずし裁断線に沿って裁断することにより形成した庇表、庇裏、接頭部表、及び接頭部裏を縫い合わせることにより形成するサンバイザー用布製カバーの製作方法。

【0007】

この様な特徴をもつ本発明の縫製用パターンシートは、布にあてたまま裁断線に沿って裁断することもできるし、初心者や裁縫に不慣れな者は、簡単に裁断線及び縫製線を布に印つけて裁断することができる。また、透明性のあるフィルム状シートなので、縫製用パターンシートを布にあてた状態で、パターンシートの外側から生地の様が見えるので、容易に柄合わせができる。しかも、フィルム状シートは、紙に比べ破損しにくい上に、待ち針穴を予め設けたことにより、待ち針を打つことによる破損を防げるので、繰り返し使用に適している。この様な利点を持つ縫製用パターンシートは、実例として説明したサンバイザー用布製カバーの様な対称形パーツで構成される物に限ることなく、いろいろ広く利用できる。

10

【0008】

本発明の縫製用パターンシートを使って縫製できるサンバイザー用布製カバーは、自分の好みに合う布地で簡単に縫製することができるので、複数のサンバイザーを持たなくても、本発明の縫製用パターンシートを使って縫製したサンバイザー用布製カバーを取り替

20

【発明の効果】

【0009】

本発明の縫製用パターンシートは、布に縫製用パターンシートをあてたまま裁断線に沿って裁断する事ができるし、裁断線及び縫製線を布地に印付けする事が楽にできるので、縫製経験の少ない人でも、洋裁や手芸などの手作りを楽しむ事ができる。また破れにくく繰り返し使用できるので、この縫製用パターンシートを利用してサンバイザー用布製カバーをいくつでも作ることができ、自分好みのオリジナルなサンバイザーを着用できる。

【発明を実施するための最良の形態】

【0010】

まず本発明の縫製用パターンシートについて、サンバイザー用布製カバーの縫製用パターンシートを例として以下図面を参照しつつ詳細に説明する。

30

【実施例1】

【0011】

図1に於けるA, B, Cは本発明の縫製用パターンシートの実施例であり、サンバイザー用布製カバーに必要なパーツの縫製用パターンシートである。試作品は適度な硬さと軟らかさを兼ね備えて扱いやすい、厚さ0.2mmの左右見開きで透明性のあるポリプロピレン製ファイルシートを利用して製作した。図1Aは、庇表の縫製用パターンシートであり、縫製線2で囲まれている庇表部分イと、裁断線1と縫製線2に挟まれている縫い代部分ア、及び裁断線1で区切られた部分ウからなり、左右閉じた折り返し部分を縫製の中心線3とし、待ち針を打つ為の対となっている待ち針穴4が複数個あり、裁断線1と縫製線2を、縫い代部分アを切り離さないように、切り残し部分エを残して切り込んである。同様に、図1Bは縫製線2で囲まれている庇裏部分イを持つ庇裏の縫製用パターンシートであり、また、図1C1は庇表に縫い合わせる接頭部分イを、図1C2は庇裏に縫い合わせる接頭部分イを持つ縫製用パターンシートである。

40

【0012】

これらの縫製用パターンシートを布の上に置いたまま、裁断線で区切られた部分ウの持つ裁断線に沿ってあて切りをする。最初に縫製用パターンシートを布の上に置き、中心線3を布の縦地方向に合わせて、対となっている待ち針穴4に互い違いに待ち針を打って、布と縫製用パターンシートを固定して、あて切りをする。あて切りをしない場合は、縫製用

50

パターンシートを見開いて布に固定して、裁断線と縫製線を印付けた後で、待ち針と縫製用パターンシートをはずし、裁断線に沿って裁断する。

【 0 0 1 3 】

裁断が済んだら、中心線を布に印付けてから縫製に取り掛かる。最初に図 1 に於いて、A の庇表と B の庇裏の額に接する縫い代部分アを三つ折りに縫って、それを縫い代とする。次に、C 1 の接頭部表部分イを縦方向に 2 つ折りにして、庇表の額に接する縫い代と中心を合わせて、庇表の額に接する縫い代を挟んで縫い付ける。更に C 2 で示す接頭部裏の縫い代部分アを三つ折りにして縫った後、短い方の縫製線 5 と、庇裏の額に接する縫製線とを中心を合わせて縫い付ける。最後に庇表と庇裏を中表にして縁の縫製線を縫い合わせる。

10

【 0 0 1 4 】

以上で出来上がったサンバイザー用布製カバーを図 2 に示したが、裏接頭部の布を強く引き上げて表側に被せて着用する。更に、図 3 に示したサンバイザー用布製カバーは、接頭部を別に製作し、縫製したものである。

【 0 0 1 5 】

実施例 1 に於いて説明した縫製用パターンシートは、裁断線 1 と裁縫線 2 を切り残し部分エを残して、切り込んだ縫製用パターンシートであるが、裁断線 1 と縫製線 2 を、切り残し部分エを残さずに切りこむと、縫製線 2 で囲まれた部分イ、及び、裁断線 1 と縫製線 2 に囲まれた縫い代部分アが切り離される。そして、切り離された縫い代部分アには裁断線 1 と縫製線 2 がついているので、あて切りや縫製線の印付けに使用することができる。

20

【 0 0 1 6 】

以上にわたり説明した実施例 1 では、縫製用パターンシートとして見開きで透明性のあるポリプロピレン製ファイルシートを利用したが、素材、大きさ、厚み、色等は適宜選択すればよい。また、実施例ではサンバイザー用布製カバーの例をあげて縫製例としたが、請求項 1 の縫製用パターンシートはこれに限らず、いろいろな物の縫製に利用することができる。

【 図面の簡単な説明 】

【 0 0 1 7 】

【 図 1 】 サンバイザー用布製カバーのパーツの縫製用パターンシートの図である。

【 図 2 】 サンバイザー用布製カバーの縫製例である。

30

【 図 3 】 サンバイザー用布製カバーの別の縫製例である。

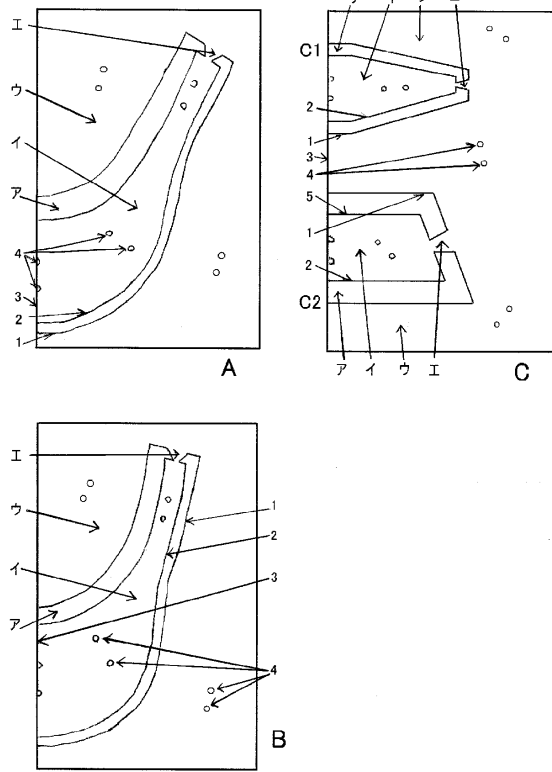
【 符号の説明 】

【 0 0 1 8 】

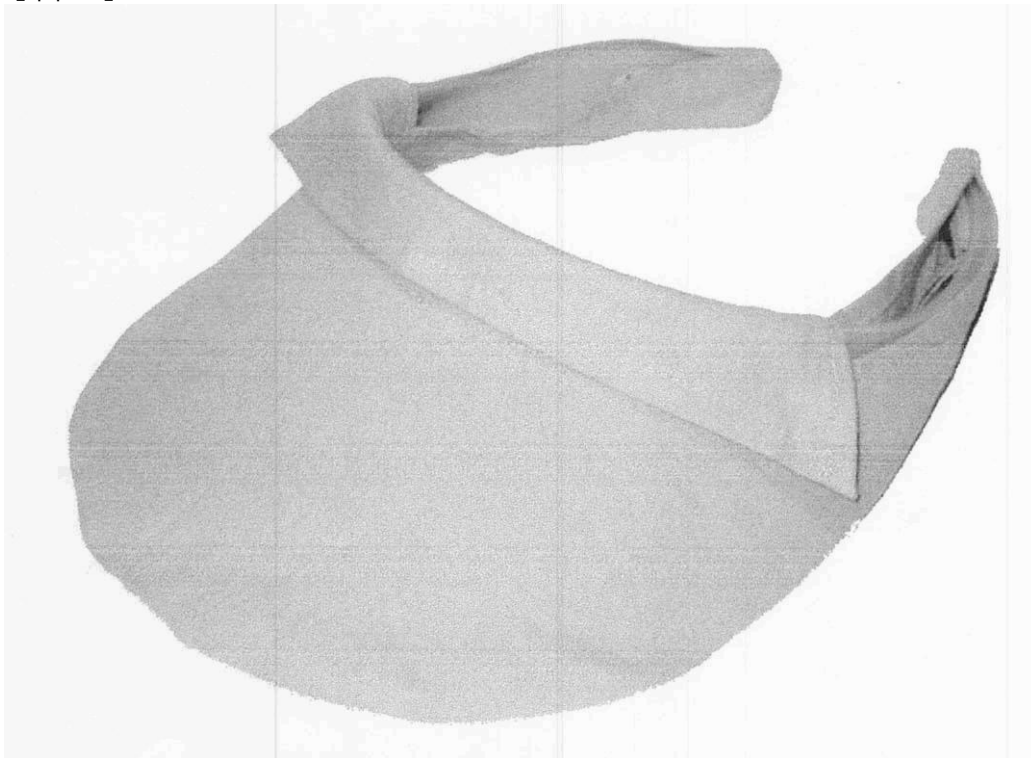
- 1 裁断線
- 2 縫製線
- 3 中心線
- 4 待ち針穴
- 5 庇裏と縫い合わず縫製線
- ア 縫い代部分
- イ 縫製線で囲まれている部分
- ウ 裁断線で区切られている部分
- エ 縫い代の切り残し部分
- A 庇表の縫製用パターンシート
- B 庇裏の縫製用パターンシート
- C 接頭部の縫製用パターンシート

40

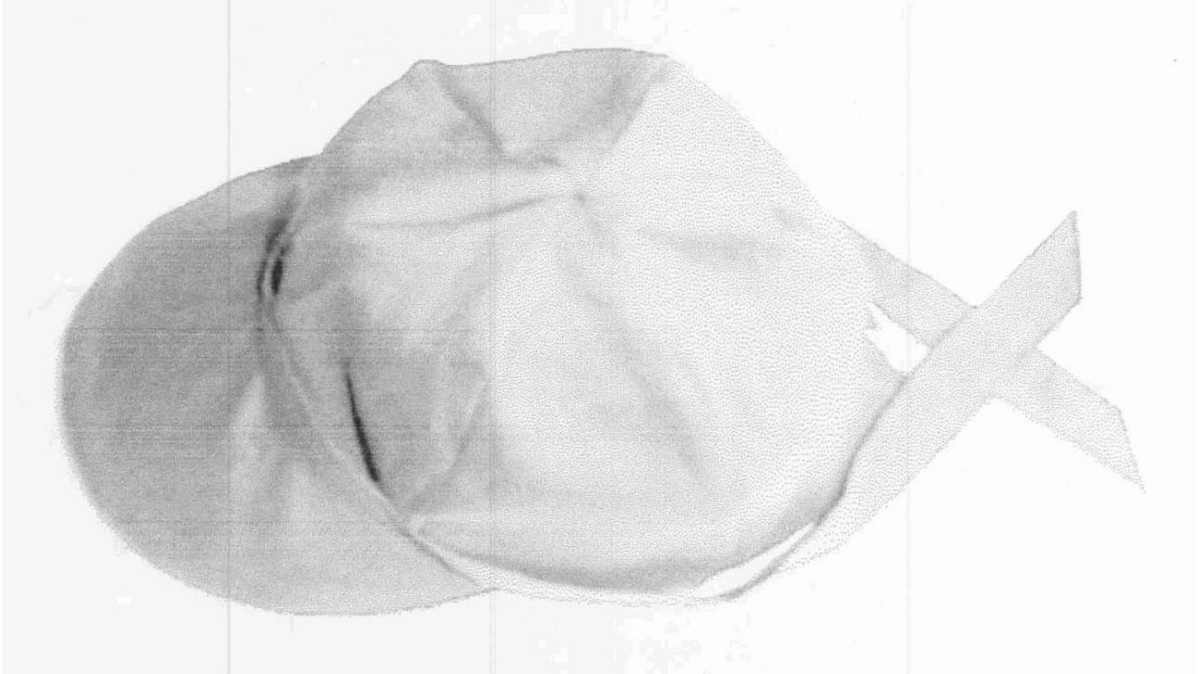
【 図 1 】



【 図 2 】



【 図 3 】



---

フロントページの続き

- (56)参考文献 実開昭62-021024(JP,U)  
実開昭63-162823(JP,U)  
登録実用新案第3027512(JP,U)  
登録実用新案第3080418(JP,U)

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)

A41H 3/00 - 3/08, 31/00, 43/00  
A42B 1/18  
A42C 1/00